

2005年4月改訂(第3版)

*2002年4月改訂

日本標準商品分類番号

877190

貯 法：冷 所

使用期限：3年（ラベルに表示の使用期限を参照すること。）

*注 意：取扱い上の注意の項参照

	H-15	E-75	S-55
承認番号	15200AMZ00074	15200AMZ00071	15200AMZ00072
薬価収載	1978年4月	1978年4月	1978年4月
販売開始	1978年4月	1978年4月	1978年5月

坐薬基剤

ホスコ[®]H-15
ホスコ[®]E-75
ホスコ[®]S-55
VOSCO[®]

医薬品添加物規格 ハードファット

【組成・性状】

1. 組 成

本品は、C₁₂～C₁₈までの飽和脂肪酸のモノ、ジ、トリグリセリドの混合物である。

2. 性 状

白色～微黄色のろう状固体で、におい及び味はない。加温して融解するとき、無色～淡黄色の液体となる。本品はエタノールに溶けにくく、水にほとんど溶けない。本品はエーテル又はクロロホルムに溶ける。

〈製剤の理化学的知見〉

項目	製剤 ホスコ H-15	ホスコ E-75	ホスコ S-55
融 点	33.5～35.5℃	37～39℃	33.5～35.5℃
凝 固 点	32.5～34.5℃	32～36℃	29～32℃
比 重	0.95～0.98	0.95～0.98	0.95～0.98
酸 価	0.2以下	1.3以下	1.0以下
けん化価	230～240	220～230	220～230
水酸基価	15以下	15以下	50～65
ヨウ素価	2以下	2以下	3以下
不けん化物	0.3%以下	3%以下	2%以下

○ホスコH-15

- ・融点と凝固点との差が小さいため、コンテナに充填後は速やかに固化し主薬の沈降を起こさない。従って急冷するとひび割れを生じることがあるので、室温放冷後、冷却する必要がある。
- ・利用範囲が広く最も一般的な基剤である。

○ホスコE-75

- ・体温よりも高い融点を示すので、他のタイプの坐薬基剤と配合することにより融点の調整用に好適であるほか、融点降下作用のある主薬を配合する場合に使用される。

○ホスコS-55

- ・配合する主薬の分散性に優れ、乳化性がある。
- ・本品は、膣坐薬にも使用が可能である。

【効能・効果】

坐剤基剤

【用法・用量】

日本薬局方製剤総則・坐剤の規定にしたがい、基剤として使用する。

*【取扱い上の注意】

1. 本品は製品物性により、まれに固まっている場合がありますが、品質には影響ありません。
2. ホスコ（各種）に共通して融解は、50℃付近で行うこと。
3. 主薬は100～200メッシュの粉末とし、少量ずつ基剤に加え均質となるように調製すること。
4. コンテナ又は鋳型への注加は、38℃で行うこと。その際、基剤はわずかに白濁し、粘度は上昇するが充填に支障はない。
5. 室温で放冷固化後、冷蔵庫（4℃）で冷却すること。

【包 装】

ホスコH-15 500g
 ホスコE-75 500g
 ホスコS-55 500g

坐剤の調製にはプラスチック製コンテナのご使用が便利でありますので、必要な向は弊社までご照会願います。

製造販売元

丸石製薬株式会社

大阪市鶴見区今津中2-4-2